

<絵本よんで！> No.2



前は、絵本の読み聞かせの大切さについてお知らせしました。今回は、たくさんの絵本の中から、どんな絵本を選んだら良いか、絵本選びのポイントについて書きたいと思います。

絵本には、大きな本、小さな本、絵のタッチも単純な絵、ち密な絵、カラフルな絵、ストーリーも楽しいもの、心にジーンとくるもの・・・と、実にたくさんの種類があります。子どもに読み聞かせをするのに、まずは自分が読んでみて、心地よいと思えるものを選びましょう。

小さいうちは、絵が単純ではっきりしたものが子どもの目を引きまします。身近な動物や、果物、車など、「わんわんだね」「おいしそうなりんごだね」と、絵を見ながら親子でおしゃべりを楽しみまします。そのうちに、『もこもこもこ』のように、「もこっ」や、「ぷうっ」といった擬態語と呼ばれる言葉や表現も、絵を見ながら楽しめるようになっていきます。2歳くらいになると、簡単なストーリーを理解し、楽しめるようになり、大きくなるにつれ、主人公と一緒に、うれしい、楽しい、悲しい、悔しいといった気持ちを一緒に感じることができまします。

4、5歳くらいになると、想像力を働かせ、ユーモアたっぷりの絵本や感動する話、冒険の物語なども楽しめるようになります。時には、主人公になりきってワクワク、ドキドキするような気分を味わうこともできましますし、感動で胸が熱くなる場面もあるでしょう。

また、古くからある昔話や童話も、日本や外国を問わず、長い年月語り継がれているだけあって、とても味わい深い絵本がたくさんあるので、読み続けたいですね。

こんなふうに、絵本は、年齢に応じて内容を選ぶことができ、いくつになっても生活や心を豊かにしてくれる素敵なツールだと言えます。何冊も購入しなくても、図書館や分室、児童館など絵本を借りられる施設があちこちにありましますので、利用すると良いでしょう。

子どもが、絵本を読んでもらうことで「生きてるって素敵だな」と感じられるように、親子でおおいに絵本の時間を楽しんでほしいと思います。



(文 ここすき！プロジェクト保育士)